

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	宮崎県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	えびの市立飯野中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	3	4	1	12	28
生徒数	124	107	129	1	361	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の向上を図り、生きる力を育む教育の創造

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・ 全学年・全教科 <p>確かな学力の向上を図るには、全学年・全教科で取り組む必要があるため。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ</p> <p>基礎・基本の定着を目指した学習指導方法の研究</p> <p>研究の見通し(仮説)</p> <p>少人数授業により学習集団を小さくし、習熟度に応じた指導など個に応じた指導ができるようになれば、基礎・基本の定着が図れるであろう。</p> <p>総合的な学習の時間を各教科等の領域に関連づけることで、学習内容が明確になり、主体的に目的意識をもって学習に取り組む生徒の育成が図れるであろう。</p> <p>生徒の実態や発達段階に応じた、学習の場の工夫や学習の在り方についての支援を行えば、個に応じた学習指導方法が身に付き、生徒一人一人の能力をより高めていくことができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>基礎・基本の定着を図るきめ細かな学習指導方法及び個に応じた発展的学習指導方法の研究</p> <p>ア 少人数指導方法の推進</p> <p>イ 題材・単元を通した問題解決的な学習の推進</p> <p>ウ 英語科での「書くこと」における指導の工夫</p> <p>エ 数学科における主体的に問題解決に取り組ませる工夫</p> <p>効果的な学習指導方法の在り方</p> <p>ア 総合的な学習の時間の基本的な考え方</p> <p>イ グループ活動の工夫及び改善</p> <p>ウ 道徳・特別活動・必修教科等と総合的な学習の時間との関連</p>
--------	---

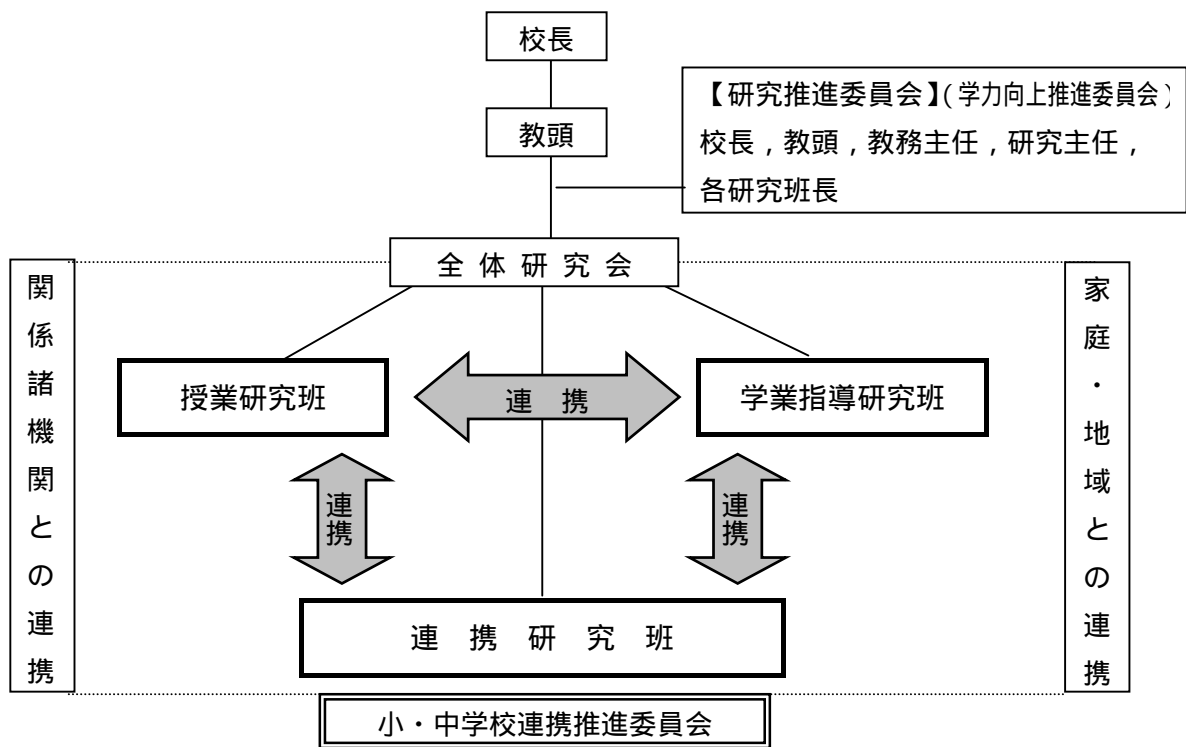
	<p>効果的な学習支援の在り方</p> <p>ア 効果的な朝自習の在り方の工夫</p> <p>イ 家庭学習に対する支援の在り方の工夫</p> <p>ウ 長期休業期間中の個別支援の在り方の工夫</p>
--	---

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>基礎・基本の確実な定着を目指した指導体制や指導方法の工夫・改善 研究の見通し</p> <p>教科指導において、指導体制や指導方法の工夫・改善等を行い基礎・基本の確実な定着を図るとともに、教科外活動における学ぶ意欲や学ぶ習慣を身に付けさせるような手立てを行えば、[確かな学力]の向上が図られ、[生きる力]を生徒に育成できるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>授業研究班</p> <p>ア 少人数指導などきめ細かな指導をはじめとする指導体制や指導方法の工夫</p> <p>イ 自ら学び自ら考える力を育成するための問題解決的な学習の学習指導過程の研究</p> <p>ウ 基礎・基本の確実な定着を図る評価の在り方</p> <p>学業指導研究班</p> <p>ア 朝自習による基礎・基本の定着</p> <p>イ 家庭学習の充実</p> <p>ウ 学習基礎訓練（発表の仕方、班づくり、話し合いの仕方）</p> <p>連携研究班</p> <p>ア 小・中連携の学力向上推進委員会の設置</p> <p>イ 小・中学校における実態調査・分析</p> <p>ウ 小・中連携で行える効果的な学力向上の手立て</p> <p>* 昨年度の研究成果の発展と課題解決を図るため、「確かな学力」の向上を図るために、基礎・基本の確実な定着を目指すこととした。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>能力開発と家庭・地域社会との連携による確かな学力の定着 研究の見通し</p> <p>2年間で培った基礎・基本の定着及びカリキュラムの改善による学習意欲の向上を生かし、個に応じた指導を充実させることで能力の伸長を図り、さらに家庭・地域社会との連携をすすめることで確かな学力が定着するであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>授業を積極的に改善し、基礎・基本の定着を図る学習指導の在り方</p> <p>ア 学習指導過程の工夫</p> <p>イ ソフトの開発</p>
--------	---

- ウ ワークシートの工夫
- エ クロスカリキュラムの充実
- オ 学習内容の工夫
- カ 評価システムの工夫
教育環境システムづくり
- ア 朝自習の工夫
- イ 清掃・給食・生徒活動の充実
- ウ 行事内容の工夫改善
- エ ボランティア活動の充実
- オ 掲示教育の充実
開かれた学校づくり
- ア 小中高連携及び一貫指導の充実
- イ 地域人材の活用
- ウ 新聞等による啓発活動
- エ 交流活動・実践活動の充実
- オ 家庭学習の支援

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

英語科・数学科における少人数指導等の指導方法の改善により、諸テストの平均点が県の平均点に近づくか上回るようになるなど学力の向上がみられた。

- ・県一斉数学テスト 2年生（平成15年度）平均点39, 3（県平均39, 1）

* 1年時(平成14年度) 平均57, 2(県平均61, 6)
・県一斉英語テスト 3年生(2年時)・・・平均点56, 7(県平均 54, 6)
各教科における個に応じたきめ細かな指導について整理し, 研究授業等を通して, すべての教科において学力向上へ取り組もうとする姿勢がでてきた。

CRTの結果を領域別に分析することにより, 生徒の実態を細かく把握することができ, 今後の具体的な指導方法の工夫・改善や個に応じた指導等に生かすことができた。

朝自習・家庭学習の仕方を明示し, きめ細かく指導したことで, 学ぶ習慣が着実に身に付いてきた。

教師の家庭学習に対する意識が高まり, 内容を教科ごとに指導する機会が増えてきた。

小・中学校連携推進委員会の設置と定期的な推進部会の開催によって, 小中合同研修会を実施し, 学校間の実態把握と連携の在り方についての研究を深めることができた。

実態調査を行うことで, 教師の意識や家庭学習の状況等を把握でき, 小学校との連携及び家庭との連携についての方向性を明らかにできた。

2. 今後の課題

CRTの分析によって明らかになった事項を基に, 教材研究や授業展開の工夫を図り, さらに指導方法の改善を進めていく必要がある。

各教科における個に応じたきめ細かな指導を一層進めていくとともに, 問題解決的な学習の流れを見直しながら, さらに推進する必要がある。

家庭学習の習慣化や基本的な学習態度の定着を図るため, 今後も小中合同研修会などを開き, より効果的な連携の在り方などを小・中学校間で協議・実践していく必要がある。

学力向上の取組に対する保護者の理解・協力をさらに得るために, 指導体制や習熟度別授業などの成果や実績を示していく必要がある。

学力把握のための学校としての取組

諸検査・テスト

・調査の目的・・・学力実態の把握と結果を分析し, 指導方法の工夫・改善や個に応じた指導に生かす。

ア 標準学力テスト(観点別到達度学力検査)・・・4月実施(国、社、数、理、英)

イ 県一斉数学テスト・・・4月実施 ウ 県一斉英語テスト・・・12月実施

エ 基礎学力調査・・・10月実施(第2学年)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学力向上フロンティアスクールの授業公開及び研究会

平成14年度

・日時 平成15年1月17日(水)

・場所 えびの市立飯野中学校

・対象 西諸県地区中学校校長及び職員、えびの市飯野地区小学校校長及び職員
本校学校評議員、本校PTA

- ・会の目的 研究成果の発表及び学力向上の取組についての意見交換
- 平成15年度
- ・日時 平成15年12月10日(金)
 - ・場所 えびの市立飯野中学校
 - ・対象 西諸県地区各小・中・高等学校校長及び職員、本校学校評議員、本校PTA
管内フロンティアスクール指定校のPTA
 - ・会の目的 研究成果の発表及び学力向上の取組についての意見交換
研究成果普及のためのホームページの作成
フロンティアティーチャーの活動
学力向上に関する諸研究会に参加し、協議の中で成果等の紹介。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年のからの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級以下
 7～9学級以下 10～12学級以下
 13～15学級以下 16学級以下

【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無